

平成23年度病害虫発生予報第6号

平成23年9月1日
愛知 県

1 普通作物

トビイロウンカは、県内の予察灯でまだ誘殺されていません。セジロウンカは、県内各地で発生を確認するようになりましたが、平年に比べてやや少ない状況です。

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が、本田、畦畔ともにやや多い状況が続いています。ほ場をよく観察し、必要に応じて防除しましょう。

ダイズにおけるハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、現在は概ね平年並です。台風通過後に多量に飛来する場合があります。残暑が厳しく降雨の少ない年には多発する傾向があるので、今後の発生状況に注意してください。防除対策については8月9日発表の「病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

2 果樹

ウンシュウミカンでは、黒点病の発生量がやや多くなっています。伝染源を減らすため、枯れ枝は適切に処分しましょう。ミカンハダニの発生がやや多くなっています。発生が多いほ場では防除しましょう。

ナシでは、ナシヒメシクイの発生は多くはありませんが、例年、9月第1半旬に成虫の発生が多くなるので、防除適期を逃さないように防除しましょう。ハダニ類の発生が多い地域があります。発生が多いほ場では早期落葉を防ぐため、防除しましょう。

ナシ黒星病、ブドウべと病の発生量が多かったほ場では、越冬病原菌量を減らすため秋期防除を徹底しましょう。

台風12号の通過が予想されています。強風を伴う降雨後、モモせん孔細菌病は急増するので、防除を徹底しましょう。

フェロモントラップ及び予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は少ない状況です。9月中に果樹園へ飛来する可能性は低いと予測しますが、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過後に突発的に飛来が急増することがありますので注意しましょう。詳細は本日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参照してください。

3 野菜

気象予報によると9月は気温が高いと予想されているため、アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガやオオタバコガなどの発生量が増えると予測します。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、育苗ほでの防虫ネットの設置、育苗期後半～定植時の薬剤処理など、十分な対策を実施しましょう。

コナジラミ類の発生量は平年並ですが、今後も注意が必要です。防除対策などの詳細は本日発表の「トマト黄化葉巻病情報第1号」を参照してください。

4 花き

オオタバコガは東三河の一部でやや多い状況です。9月上旬から増加してくるので、ほ場での生息状況をよく見て、早期防除に努めましょう。詳細は本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 8月上旬の葉いもちの発生量はやや少なかった 9月の降水量はやや多い	± － ＋
		トビイロウンカ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並
	ツマグロヨコバイ	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い	＋
	コブノメイガ	やや少ない	全域	8月下旬の発生量はやや少ない	－
	フタオビコヤガ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い	＋
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	－ ± ＋

・防除対策

〔イネ・ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類〕

キラップL粒剤（斑点米カメムシ類のみ適用有り）、ダントツ粒剤やスタークル豆つぶなどで防除しましょう。収穫時期が近づいているので、使用時期に注意してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや多い	知多	8月の枯れ枝上の胞子形成量は多い 8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量はやや多い	＋ － ＋
		多い	東三河	8月の枯れ枝上の胞子形成量は多い 8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はやや多い	＋ ＋ ＋
	ミカンハダニ	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はやや多い	± ＋
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 8月下旬の発生量はやや少ない	－ －
ブドウ	べと病	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はやや多い	＋ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
カキ	炭疽病	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はやや多い	± +
	うどんこ病	やや少ない	全域	8月下旬の発生量はやや少ない	—
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	予察灯における誘殺数は少ない	—
				スギ・ヒノキ球果の口針鞘数は少ない	—

・防除対策

〔ウンシュウミカン・黒点病〕

伝染源を減らすため、枯れ枝は取り除き、ほ場から持ち出し適切に処分しましょう。前回散布後の累積降雨量250mmを目安として、ジマンダイセン水和剤やデランフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

越冬病原菌密度を低下させるため、ICボルドー412などで秋期防除しましょう。

〔ブドウ・べと病〕

ICボルドー48Qなどを丁寧に散布しましょう。また収穫後は落葉の処理を徹底し、来年の発生源になる病原菌を減らしましょう。

〔カキ・炭疽病〕

アミスター10フロアブルやナリアWDGなどで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	やや多い	全域	8月下旬現在発生を確認していない(平年並) 9月の降水量はやや多い 台風12号が接近している	± +
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	やや少ない	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	—
	ハイマダラノメイガ	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
ネギ	さび病	少ない	全域	6月下旬の発生量は少ない 9月の気温は高い	— —
ハウレンソウ ナス(施設)	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	8月下旬の露地ナスでの発生量はやや多い 9月の気温は高い	+
トマト(施設)	コナジラミ類	やや多い	全域	黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少ない	—
				フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +

・防除対策

【キャベツ・黒腐病】

長雨や強風を伴う降雨後に発生が多くなるので、天候に注意し、バリダシン液剤5やカセット水和剤などで防除しましょう。

【ダイコン、ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ】

ダイコンではハチハチ乳剤、フェニックス顆粒水和剤など、ハクサイではプリンスフロアブル、スピノエース顆粒水和剤など、キャベツではプレオフロアブル、プレバゾンフロアブル5などで防除しましょう。

【ハウレンソウ、ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ】

ハウレンソウではパダンSG水溶剤など、ナスではプレオフロアブル、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

【トマト（施設）・コナジラミ類】

本日発表の「トマト黄化葉巻病情報第1号」を参照してください。

【野菜共通・オオタバコガ】

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温は高い	- +
	アザミウマ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
	ハスモンヨトウ	平年並	全域	ダイズやキャベツほ場における8月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	- ± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +

・防除対策

【キク（露地）・アザミウマ類】

ダントツ水溶剤、ハチハチ乳剤などで防除しましょう。

【キク（露地）・オオタバコガ】

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台8月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は、数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率とも40%です。降水量は平年並または多い確率とも40%です。日照時間は、平年並の確率が40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率とも40%、3～4週目は平年並または高い確率とも40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%